

2022年度 環境安全活動の目標と達成

★★★達成、★★ほぼ達成、★未達

共通

2022年度目標	2022年度実施結果	達成度	2023年度目標
環境安全専門人材の育成	・2023年度新卒2名の育成計画のコンセンサスの共有化 ・育成部場と育成計画を策定	★★	・2023年4月に育成部場へ配属 ・育成状況の把握とフォロー（サクセッションプラン）
安全価値観の醸成	・全社ライフセービングアクション(LSA)の展開 ・関連教育、工事版LSAの展開、活動効果確認、LSA活動の浸透状況調査	★★	・LSA活動の海外拠点の意識調査 経営・現場の双方向でのコミュニケーション深化 ・LSA活動事例のHP掲載による啓発
事故災害時の情報共有化体制の構築	・関係部署、支社・製造所、事業会社との連絡体制の確認、本社への通報内容の共有化 ・有事の際のマスコミ対応体制の構築	★★	・有事の際の連絡体制の構築、通報訓練の実施 ・マスコミ対応訓練の実施
現場改善支援 (特に国内独立工場、海外工場)	・中国環境安全NS化 ・監査個別ヒアリングの継続 ・米国EHSカウンシルへの参画	★★	・中国環境安全NSの有効性確認 ・米国カウンシルでの情報交換、安全体制支援（米国版安全基本行動規範の策定）

環境保全

2022年度目標	2022年度実施結果	達成度	2023年度目標
環境事故・環境重大トラブルゼロの継続 環境トラブル(水質大気等)ゼロ	環境汚染事故・重大トラブルの発生なし 水質大気等トラブル:2件発生 フロン漏えいトラブル:18件発生	★★	環境事故・環境重大トラブルゼロの継続 環境トラブル(水質大気等)ゼロ
産業廃棄物の発生抑制と再資源化推進 ・廃プラの発生量および処理の実態把握とサーマル削減推進 ・廃プラ埋め立て量:ゼロ	プラスチック資源循環促進法に基づく廃プラの発生量および処理の実態把握を実施 廃プラ埋め立て量:1.5tで目標未達	★★	産業廃棄物の発生抑制と再資源化推進 プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出の抑制および再資源化等を推進 ・原単位の向上等で排出量抑制を推進 ・プラスチック使用製品産業廃棄物等の再資源化率向上を推進
生物多様性保全の推進 ・次期生物多様性国家戦略に沿った取り組み推進	・30by30アライアンスへの参加および「自然共生サイト」認定実証事業に参加 ・従業員が自然に親しむ取り組みとして「「まちもり」木の実とタネウォッチング」を開催し444MMPを付与	★★★	生物多様性保全の推進 ・次期生物多様性国家戦略に沿った取り組み推進 ・生物多様性に関する従業員への啓発活動の推進

地球環境対策

2022年度目標	2022年度実施結果	達成度	2023年度目標
・第三者保証による算定精度向上 ・新規システムの構築およびデータの見える化と活用でモニタリング推進 ・バウンダリを含めた算定精度の向上	・第三者保証を通して算定方法の改善、排出係数の精度向上を実施 ・GHG算定システム「GGX」を導入し見える化を推進 ・海外事業所のデータ収集範囲を拡大	★★★	・第三者保証による算定精度向上 ・新規システムの運用によるモニタリングおよびデータの活用を推進 ・バウンダリを含めた算定精度の向上
・定期報告書の新システムでの作成とフォロー ・省エネ法、温対法の改正対応	・報告に関する新しいシステムでの対応を実施 ・改正省エネ法・温対法への対応の準備実施	★★★	・改正省エネ法・温対法に沿った対応の推進

保安防災

2022年度目標	2022年度実施結果	達成度	2023年度目標
保安重大事故ゼロ	保安重大事故:発生なし	★★★	保安重大事故ゼロ
保安事故ゼロ	保安事故:2件発生	★	保安事故ゼロ
保安事故強度:0.5以下(平均)	保安事故強度:1.58	★	保安事故強度:0.5以下(平均)

労働安全衛生

2022年度目標	2022年度実施結果	達成度	2023年度目標
重篤労働災害ゼロ(*)	重篤労働災害:2件発生	★	死亡・後遺症災害ゼロ
重篤労働災害ゼロを前提として、数値目標は下記			上記以外の休業災害の数値目標は下記
<国内従業員> 休業災害度数率 \leq 0.1	<国内従業員> ・休業災害度数率:0.19	★	<国内従業員> 休業災害度数率 \leq 0.1
休業災害強度率 \leq 0.005	・休業災害強度率:0.009	★	休業災害強度率 \leq 0.005
<海外従業員> 海外休業災害度数率 \leq 1.0	<海外従業員> ・休業災害度数率:1.27	★	<海外従業員> 海外休業災害度数率 \leq 0.9

(*)重篤労働災害:死亡および後遺症災害